

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2190200028
法人名	特定非営利活動法人だいにんの花
事業所名	NPOグループホームだいにんの花
訪問調査日	平成 19 年 12 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2190200028
法人名	特定非営利活動法人だいのの花
事業所名	NPOグループホームだいのの花
所在地	関市西神野605番地1 (電話) 0575 - 20 - 0013
評価機関名	旅人とたいようの会
所在地	大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	9,5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 2階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2		1 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中農厚生病院 今峰クリニック 後藤歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

従来のグループホームの地続きにNPOのホームを新設した。理念は同じく、利用者を中心に規則にこだわらず、縛られず家庭の生活を継続することを管理者・職員は常に考え実践している。見慣れた山あいの静かな田畑の中で利用者一人ひとりのありのままの暮らしを支え、職員はつかず離れず利用者の意向に沿う自然な見守りを行っている。交流センター(婦人部)農業センター・子供たちなど地域住民と喫茶に行ったり学習したりホームの行事に招き交流している。農業センター主催の一泊旅行に住民と一緒に利用者と職員も参加し楽しいひと時を共有できる地域

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>開設平成18年12月4日 初回評価</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回始めて外部評価を実施する意義を管理者から説明を受け、職員がそれぞれ自己評価を理解をしながら取り組んでいる。その結果についても改善に向け取り組む姿勢がみられる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議にはメンバーのほか家族全員に呼びかけ利用者同伴で開催している。職員の紹介や家族から「どこまで見てもらえるか」「日に3回散歩に出たいが見守りできるか」など積極的な話し合いがある。非難訓練には理事長や婦人会が参加している。農業センター主催の一泊旅行に利用者も参加予定である。市町村担当者とは電話や出会ったり連携ができています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議には家族全員に呼びかけ、ホームや地域のかかわりを意見交換しながら話している。個別の訪問時には必ず利用者・家族だけの時間を作ったり、家族の要望や不満など聞く努力をしている。年3回「苦情・要望申し立て用紙」を送付し意見要望をたずねている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、老人会・婦人会・自治会行事に参加したり、中学生・地域の子供たちとも交流がある。野菜や大輪菊をいただいたり、ホームの行事などに招いたり利用者も地域の中で交流しながらその人らしい生活がある。交流センターの喫茶やカラオケに出かけたり一泊旅行にも参加し地域住民として共に暮らしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく家庭的な雰囲気の中で、その人らしさを大切にしよう」を独自の理念とし玄関に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭の継続で不自然にならない環境をつくり、やりたい時にやりたいことを利用者一人ひとりに合わせた支援をしようと管理者も職員も日々話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会・婦人会・自治会行事(神社掃除・おひまち・夏祭りなど)に参加したり、中学生の「みのり学級」地域の「賢治の学校」の子供たちと交流したり、野菜や大輪菊を頂いたり、ホーム行事(クリスマス会・焼きも大会・お菓子造り教室など)に招いたり利用者も地域の中で共に交流しながら暮らしている。又交流センターの喫茶やカラオケに出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設1年で初回の外部評価に、意義を理解し管理者・職員一人ひとりが取り組み、その結果を活かしより向上しようとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に毎回家族全員に参加を促し利用者同伴で参加している。ホームの現状の報告や職員の紹介、家族から「どこまで見てもらえるか」「一人散歩したい見守りは」等積極的な話し合いがある。避難訓練には理事長始め・婦人部代表などが参加しているが夜間発生の災害協力体制に不安がある。農業センター主催の一泊旅行に地域住民と一緒に利用者も参加する予定がある。		会議での意見交換や話し合いも活発でホームの理解や地域の協力もみられるが、何時起きるか分からない災害について、特に夜間の協力体制の構築を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の問題、運営基準の疑問・報告など日ごろから市町村担当者と電話や直接出会い連携を取っている。担当者も時折立ち寄りて相談に応じてくれる関係がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時間制限はなくいつでも尋ねることができ、廊下の壁に利用者の暮らしの写真が大きくしていっぱい掲示し訪問者に説明しながら情報提供している。介護記録・病院記録をみせたり、金銭管理や運営推進会議の報告、予定カレンダー等で行事を毎月知らせ「たより」はまだ発行してないが家族訪問も頻回で急な場合は電話などで報告連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には全家族に参加を呼びかけ、ホームや地域の関わりを意見交換している。個別の訪問時には利用者・家族だけの時間をつくったり家族の要望や不満など聴く努力をしている。又年3回「苦情・要望申し立用紙」を送付し意見要望を尋ねている。しかし苦情や不満は直接は言い難いと思われるが書面にホーム以外の窓口の明記がない。		利用者や家族の立場にたって些細なことでも聴き運営に反映させる努力はあるが、苦情や意見は直接は言い難いと思われる、行政・国保連・第三者などなんでも気軽に言える窓口を書面に明記することが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職後も遊びに来てもらうことで利用者へのダメージを最小限にしている。また運営推進会議で職員の離職を報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践研修・社外研修など情報を提供したり、段階的な専門職・介護福祉士等を目指した研修を受ける機会の確保をしている。又社内では看護師から技術面の研修をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に加入しており、管理者同士の交流はあるが、職員同士の勉強会・交流には至っていない。今後積極的に施設見学や交流でサービスの質の向上を図りたい意向がある。		隣接のホーム交流に留まらず、他サービス機関も視野に入れ事例検討など幅広い研修が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院・小規模多機能サービスからの入所が多い。本人や家族と事前の話合いを得ているが、特別にせず自然に馴染めるよう職員が見守りしながら対応している。ちょっとしたトラブルは職員側が謝って解消している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の知らない昔話、時代の思い出話から教えてもらったり、読み取ったり・話題にして話を膨らませ利用者の想いを知る努力をしている。「岸壁の母」を歌いながら涙し共感することもある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>テレビから話題になり食前酒を作り職員も一緒に楽しんでいる。日常の話題を大切に「まずやってみよう」と強制せず、やりたいことを探すことにしている。「酒が飲みたい」「図書館に行きたい」「散歩したい」など利用者の意向を大切に叶える支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントはセンター方式を活用し、利用者の情報(生活習慣・職歴・趣味など)を家族に書類記入の協力を頼んでいる。それらを基に利用者・家族・職員で話し合い、アセスメント用紙を埋めながら介護支援専門員が作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月を定期的に見直しをしている。利用者の介護記録(経過記録)をみながら介護計画の評価をし、利用者・家族の要望を取り入れ会議の中で見直しをしている。又状態の変化があれば即時見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望である早朝・午前・午後の散歩の支援は手薄な時間帯には職員のボランティアや家族の協力で支援している。宝塚に行きたい利用者の要望を職員二人体制で実現予定など柔軟な対応をしている。キーパーソンの家族との連携や話し合いをしながら通院の代行もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本に家族同行の受診となっている。通院記録で医師と連携をとり、かかりつけ医の訪問診療や家族の都合により職員が代行もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族と将来に向け重度化を前提に話しをしている。現在ホームとして終末期体制ができていないが、無理をせず状況変化時点で医師・家族と話し合い安心できる適切な対応を考えている。しかし終末期に向けた方針の共有がホームとしてまだできていない。		本人の思い・家族の思い・制度運営面を考え、将来ホームとしても利用者が安心して最期を迎えられるような体制造りを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねる言葉かけや対応をしないことを日々職員間で注意し合っている。記録書類の記入場所についても目に触れないよう注意している。また記録を家族が見たい希望にあわせ方言や地域性の強いことば等不快を招かないの記録に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「朝寝したい」「居室にいたい」「教育勸話を語りたい」「早朝・午前・午後一人で自宅まで散歩したい」少々無理でも利用者の生活ペースを尊重し職員は工夫努力で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一週間の食事担当があり利用者の好み季節感を取り入れ、調理・盛り付け・配膳・かたづけなどできる事を出来る利用者と一緒にしている。楽しい会話を職員が引き出し笑い声を聞きながら進めている。晩酌も希望にあわせ職員が相伴することもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて毎日でも入浴ができる。入浴嫌いな利用者にもゆず湯・菖蒲湯にしたり、さりげなく脱衣場に誘導し「ちょうど湯が湧いてます入りましょう」と利用者に合わせて対応をしている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム全体で誕生会・ポーリング・ミニ運動会・芋ほり・西瓜割り・水鉄砲ゲームなど強制せず声かけながら楽しんでいる。新聞を取りに行く・読書する・詩吟・歌を唄う・洗濯物を干す・畳む・食事・おやつ作りなど利用者一人ひとりに「がんばったでしょう」「楽しかったでしょう」の賞が居室に張っており職員の工夫が見られる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と一緒にの外出も頻回である。職員と季節や天候・利用者の身体状態に合わせて外気欲も楽しんでいる。買い物・外食・図書館など利用者の希望を尊重しドライブしたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝は利用者が開鍵して散歩に出かける。就寝時には職員が施錠し日中は常に鍵はかけていない。利用者や来客・職員の出入りもチャイムが知らせてくれる。見守りの必要な利用者には職員が確認し、利用者に気づかれないよう支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害に備え年1回避難訓練をしている。地域の参加を促し運営推進会議にも協力体制について呼びかけている。消火器・避難経路の点検を行うとともに米の備蓄(1年分)をしている。法人の代表も近隣に住居し、職員連絡網もあり安全に配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量・排泄など毎日記録し利用者一人ひとりの健康状態を確認している。保健師の指導で汁2菜ほどを維持し、栄養バランスを料理本のカロリーを参照したり、定期的に利用者の血液検査やかかりつけ医の指導を受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間はバリアフリーでシルバーカーの利用者にも危険のない配慮がある。季節の花を活け家庭を意識させる。廊下には日常生活の様子を大きな写真で紹介している。写真を見ながら、利用者の豊かな表情に家族とも話題が共有できる。クリスマスの準備中である。毎日の拭き掃除には漂白剤を薄めて入れインフルエンザ予防をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・箆笥・三面鏡・椅子・化粧品・洋服など自宅から使い慣れた物を持ち込み、風呂上りの化粧直しに使い慣れた三面鏡を前に紅や眉もすっきり書きその人らしく過ごしている。図書館で好きな本や新聞も読み自由な生活がある。		